

令和３年度 滝野中学校 学校評価（最終報告）

○成果 ▲課題 ☆方策

観点	項目	実践目標・評価規準・成果・課題・方策		教職員	生徒	保護者
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識技能の定着	重点目標	基礎的・基本的な知識技能の定着	3.29		
		評価規準	基礎的・基本的な知識技能の定着を図るための工夫改善を行っている。			
		成果または課題と方策	○タブレットを活用するなど、全校生の学習を保证する取り組みができた。 ▲取り組む生徒と取り組まない生徒との間の差が広がっている。			
	主体的・対話的で深い学びの実現	重点目標	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	2.90		
		評価規準	主体的・対話的で深い学びの観点から授業改善を行っている。			
		成果または課題と方策	○発表活動を通して生徒が自分で調べたいことなどを主体的に学ぶことができている。また、調べたことを自信を持って発表することができている。 ▲主体性の認識が教師により違うので、学校として「主体的」の定義が具体的にされると、それに向けての授業改善がより進む。			
		先生は（学校は）	ペアやグループでの学習も取り入れながら、話し合い活動をしたり、より深く考えたりするような授業をしている。	(2.81)	3.33 (3.41)	3.11 (3.33)
	UDの視点を取り入れた「わかる・できる」授業の推進	重点目標	UDの視点を取り入れた「わかる・できる」授業の推進	3.14		
		評価規準	「わかった・できる」授業の実現のため、UDの視点を取り入れている。			
		成果または課題と方策	○板書やICTで授業の流れや目標を可視化するなどし、UDの視点を意識できたのでは良かった。 ▲UDの視点を学校全体で共通理解して取り組む必要がある。			
		先生は（学校は）	「わらい」や「振り返り」のある、生徒みんながわかりやすい授業を工夫している。	(3.19)	3.33 (3.39)	3.1 (3.25)
	タブレット・PC等のICTの効果的な活用	重点目標	ICTの効果的な活用のための知識・技能の習得	3.05		
		評価規準	ICTの効果的な活用のための知識・技能の習得に向けた研修を計画・実施している。			
		成果または課題と方策	○実践しながらより良いかたちを模索できた。 ▲授業づくりに余裕が生まれたら新たな機能を試していきたい。			
		先生は（学校は）	ICT機器や、タブレットを効果的に取り入れた授業づくりに取り組んでいる。	(3.50)	3.54 (3.43)	3.32 (3.45)
豊かな心の育成	他者や自己との「対話」のある道徳教育の充実	重点目標	他者や自己との「対話」のある道徳教育の実践	3.29		
		評価規準	他者や自己との対話のある授業づくりを意識して行っている。			
		成果または課題と方策	○ローテーションをすることで、教師が教材を理解して伝える技量が伸びてきた。 ▲自己との対話のある授業はまだできていないようなので、今後力をより入れて取り組みを進める。			
		先生は（学校は）	道徳の時間に、みんなの意見を聞いたり、意見交流をしたりする場面のある授業をしている。	(3.05)	3.49 (3.50)	3.02 (3.43)
	多様な価値観の尊重や生命尊厳を基盤にした人権教育や共生教育の充実	重点目標	多様な価値観の尊重や生命尊厳を基盤にした人権教育や共生教育の充実	3.14		
		評価規準	多様な価値観の尊重や生命尊厳を基盤にした人権教育や共生教育を実践している。			
		成果または課題と方策	○多様な価値観を大切にしたい人権教育や共生教育に取り組んでいる。 ▲「多様性を重んじる」ところまでは達成できていない。			
		先生は（学校は）	一人ひとりを大切にし、みんながともに学べるように取り組んでいる。		3.31	2.81
	キャリア教育・体験活動でのつながりや自己有用感、ふるさと意識の向上	重点目標	キャリア教育・体験活動を通じたつながりや自己有用感・ふるさと意識の向上	2.77		
		評価規準	地域や人とのつながりを感じられるキャリア教育や体験活動を計画・実施している。			
		成果または課題と方策	○コロナ禍ではあったが、感染症対策を十分にとり体育大会や修学旅行などを実施し、生徒の自己有用感が高まった。 ▲コロナ禍で体験活動が制限され、重点目標にあるような活動にはなり得なかった。			
		先生は（学校は）	コロナ禍でも、生徒が満足し、地域・保護者とのつながりを感じられる行事や体験活動を計画、実施している。	(2.71)	3.05 (3.20)	2.91 (3.29)
健やかな体の育成	運動習慣の定着と体力・運動能力の向上	重点目標	運動習慣の定着と体力・運動能力の向上	3.05		
		評価規準	ストレッチ等、運動習慣を定着させる取組をしている。			
		成果または課題と方策	○生徒は昼休みに進んで体を動かしており、比較的運動習慣が身についている。 ▲コロナ禍で制限も多く、部活動の時間も短縮されるなど運動時間が少なくなった影響が、運動中の些細な怪我が比較的多かった。			
		先生は（学校は）	生徒の体力や運動能力を向上させたり、運動習慣を定着させたりする指導をしている。	(3.14)	3.22 (3.35)	3.1 (3.28)
	生徒の主体性や対話を重視した部活動	重点目標	生徒の主体性や対話を重視した部活動の運営	3.29		
		評価規準	生徒の主体性や対話を重視した部活動の運営を行っている。			
		成果または課題と方策	○各部で指導の方法を工夫し、生徒の主体的な活動による部活動運営を行っている。 ▲「希望入部制」にも関わらず仕方なく所属している生徒への対応が難しい。			
		先生は（学校は）	部活動で生徒の主体性や、やる気を大切にしたい指導をしている。	(3.33)	3.31 (3.33)	3.00 (3.28)
	自己管理能力の育成に向けた健康教育の推進	重点目標	自己管理能力の育成に向けた食育や健康教育の推進	2.41		
		評価規準	各教科の中で食育や健康教育を意識した取組をしている。			
		成果または課題と方策	▲食育や健康教育を意識した取り組みを、各教科の中で実施することはできなかった。			
		先生は（学校は）	授業や日常生活、HR、学級通信などで健康的な食生活や規則正しい生活について指導している。	(2.86)	3.27 (3.34)	3.00 (3.35)
組織的な生徒指導の推進	規範意識や自己肯定感・自己有用感の向上を図る指導の徹底	重点目標	規範意識や自己肯定感、自己有用感の向上を図る指導の徹底	2.77		
		評価規準	共感的な生徒理解をもとに、根気強く指導し、自己決定力を育成する取り組みをしている。			
		成果または課題と方策	○全体的に生徒の対話を重んじ、高圧的な指導はほとんど見られなくなった。 ▲対応に配慮が必要な生徒が増えており、教師間の共通理解と粘り強い指導が必要である。			
		先生は（学校は）	デートDV、薬物乱用防止教室、情報教育講演会など、様々な問題について考える機会を作っている。	(3.32)	3.45 (3.32)	2.94 (3.34)
	いじめや問題行動の未然防止と早期発見・早期対応の取組の充実	重点目標	いじめや問題行動の早期発見、早期対応をするための教育相談の充実	3.32		
		評価規準	生活実態把握調査やフリーカード、計画的な教育相談を実施し、指導に生かしている。			
		成果または課題と方策	○問題への対応が早くできており、教師間の連携もできている。 ▲小さな課題であっても積極的にとりあげて指導するという意識があってもよい。			
		先生は（学校は）	生活実態アンケートやフリーカード、教育相談で生徒の悩みを聞いてくれる。	(3.91)	3.40 (3.55)	2.99 (3.32)
	教員やSC・SSWとの教育相談、関係機関等の積極的な行動連携の充実	重点目標	SCやSSWを含めた校内生徒支援体制の充実と福祉・医療機関等との積極的な行動連携	2.91		
		評価規準	生徒指導支援の会や職員会議等で情報共有して支援にあたり、SC、SSW、関係機関とも連携を図っている。			
		成果または課題と方策	○生徒指導・生徒支援に関する情報共有が校内でよくとれていた。 ▲より多様な支援を行うためSSWやSC・関係機関との連携はまだまだ不十分であった。			
		先生は（学校は）	学校の先生だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど外部の先生との教育相談の機会を設けている。	(3.45)	3.11 (3.22)	2.80 (3.23)

	命の教育、ネットトラブル未然防止に向けた取組の推進	重点目標	命の教育、ネットトラブル未然防止に向けた取組の推進		2.86			
		評価規準	自殺予防・ネットトラブル未然防止に関連する講演会、研修会を計画・実施している。					
		成果または課題と方策	○タブレット活用が日常的となり、常に情報モラルを意識した指導を行った。 ▲ネット使用が日常化することで、学校や教師が想定していなかったトラブルが発生し、事後指導に終始することになっている。					
		先生は（学校は）	情報モラルの学習をしてくれたり、生活実態アンケートやフリーカード、教育相談等でSNS上での困ったことを聞いてくれる。			3.31	3.02	
小中一貫教育の推進	9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導の充実	重点目標	9年間の学習のつながりを意識した系統性・連続性のある指導の充実		2.00			
		評価規準	小中一貫校に向けて、総合的な学習の時間をはじめとするカリキュラムの整備を進めている。					
		成果または課題と方策	▲滝野地域の小中一貫校の開校までしばらく期間があり、準備への意識がやや低く、まだ小学校との連携がとれていない気がする。					
					(2.64)			
	9年間を見通した生活・学習習慣づくりの推進	重点目標	9年間を見通した生活・学習習慣づくりの推進		1.95			
		評価規準	話形の活用等、小学校での生活・学習習慣を意識した取組をしている。					
		成果または課題と方策	▲今後小中一貫に向けた取組を小中教職員間で行えるようにしていく。					
					(2.62)			
	個に寄り添った支援教育の充実	縦・横の連携を図った連続性及び連携のある特別支援教育の充実	重点目標	縦横の連携を図った連続性及び連携のある特別支援教育の充実		2.67		
			評価規準	a. 小学校の教育支援委員会にコーディネーターが参加し、情報共有を行っている。 B. 職員会議や研修で個々の生徒についての情報共有をしている。		3.18		
成果または課題と方策			○小中学校の校内教育支援委員会へ各コーディネーターが参加することで、情報共有が円滑にできるようになった。 ▲担任しているクラスを超えて学年や、所属している学年を超えて学校全体のことを見るのは難しいからこそ、必要な情報をまとめて共有する仕組みが必要。		(3.33)			
					(3.64)			
生徒一人一人の生活背景や内面の理解に基づいた居場所づくりの推進		重点目標	生徒一人一人の生活背景や内面の理解に基づいた居場所づくりの推進		3.05			
		評価規準	IUの活用やアンケート、教育相談を通して、生徒の内面理解に努め、指導に生かしている。					
		成果または課題と方策	○定期的なアンケートや教育相談が生徒の内面理解や心理的不安の早期発見・早期対応につながっている。 ▲各担任が受け持つ要支援生徒が多く、他の教師がサポートするのにも時間が十分にとれない。					
		先生は（学校は）	生徒を理解し、一人一人の生徒に寄り添った指導をしている。		(3.45)	3.23 (3.26)	3.03 (3.24)	
不登校の未然防止と支援の充実		重点目標	不登校の未然防止と支援の充実		2.86			
		評価規準	a. 自己有用感を育むことで居場所のある学級・学年づくりを推進している。 b. 90や関係機関、教師同士が連携して不登校生徒の支援にあたっている。		2.86			
		成果または課題と方策	○学級づくりとして、SSTやエンカウンター、ピアサポート等に計画的に取り組むことでより積極的な未然防止教育を実施する。 ▲不登校生徒のペースも大事だが、一人ひとり何を目指しているのかはっきりさせて、目標を持って取り組ませるべきだと考える。		(3.23)			
		先生は（学校は）	生徒の活躍の場を設け、つながりのある集団（学級・学年・学校）を作ろうとしている。		(3.45)	3.36 (3.42)	3.26 (3.35)	
落ち着いた環境づくり	命を守り抜くための安全教育の推進	重点目標	交通安全教室・防災訓練・防災教育の充実		2.95			
		評価規準	交通安全教室・防災訓練を計画・実施している。					
		成果または課題と方策	○年間を通して、計画的に避難訓練や交通安全への取組がなされている。 ▲より実践的な避難訓練を今後検討していく。					
		先生は（学校は）	生徒の安心安全を守るために交通立ち番や安全指導・防災訓練等を行っている。			3.45	3.23	
	さわやかな挨拶運動と時間を守った主体的な清掃活動の推進	重点目標	さわやかな挨拶運動と時間を守った主体的な清掃活動の推進		3.18			
		評価規準	a. 教師が率先してあいさつ・清掃をしている。 b. 生徒会を中心にさわやかなあいさつや時間を守る清掃活動の推進を行っている。		2.82			
		成果または課題と方策	○全体的には生徒はよくあいさつをしている。 ▲生徒の掃除への取り組みにはまだまだ課題が残る。なかなか徹底できず、指導方法や取り組み方などを今後も検討していく。		(3.14)	3.33 (3.45)	3.11 (3.48)	
		先生は（学校は）	率先して挨拶をしたり、校内の美化に努めている。		(2.95)			
	通学路や施設・設備の定期的な安全点検の徹底	重点目標	通学路や施設・設備の定期的な安全点検の徹底		2.91			
		評価規準	通学路の点検や、定期的な施設・設備の安全点検を実施している。					
		成果または課題と方策	○学期ごとに安全点検を実施し、早期の修繕に努めた。 ▲素人による目視点検では限界があり、専門の業者点検も併せて必要である。					
		先生は（学校は）	安全な学校生活が送れるように、学校の施設整備の保守点検を行っている。		(3.27)	3.30	3.37	
	「地域とともにある学校」づくりの推進	重点目標	家庭・地域と連携協働した「地域とともにある学校」づくりの推進		3.09			
		評価規準	ホームページ・学校だより等を利用して、地域に向けて情報発信している。					
		成果または課題と方策	○ホームページが定期的に更新され、学校便りや学級通信などで情報発信を積極的に行った。 ▲地域の方はHPをよく確認されているため、インターネットを活用してより積極的に情報を発信していく必要がある。					
		先生は（学校は）	通信やホームページ、メール配信を利用して情報を発信している。		(3.59)	3.45 (3.26)	3.14 (3.40)	
風通しのよい職場環境作り	ハラスメントのない、心身ともに健康で心の通い合った学校づくりの推進	重点目標	体罰・ハラスメントのない心身ともに健康で心の通い合った学校づくりの推進		3.05			
		評価規準	体罰・ハラスメント防止研修を行うとともに、注意・相談できる職場づくりに努めている。					
		成果または課題と方策	○定期的にハラスメントに関する研修を受けたり、話を聞くことで主体的にハラスメントを抑制できた。 ▲ハラスメントについては、常に自分事として捉え、気持ちを引き締めて生徒に対応していかなければならない。					
		先生は（学校は）	授業中に、呼び捨てにせず、「さん、くん」づけて呼んでいる。気づいたことを言い合える教師集団を作っていく。		(3.32)	3.12 (3.04)	3.14 (3.36)	
	「定時退勤日」「ノー部活デー」の完全実施など、働き方改革の推進	重点目標	定時退勤日、ノー部活デーの完全実施		2.86			
		評価規準	定時退勤日、ノー部活デーを適切に設定し、実施している。					
		成果または課題と方策	○市の部活動指導方針にそって部活運営がなされており、ノー部活デーもよく守られている。 ▲定時退勤できてません。▲定時退勤日への啓発が不十分で、教職員の意識付けが不十分であった。					
					(3.14)			
	一人一人の能力や個性が発揮できる教職員の協働体制の確立	重点目標	一人一人の能力や個性が発揮される学校・学年組織の構築		3.09			
		評価規準	教員一人一人のよさを生かした学校・学年経営がされている。					
		成果または課題と方策	○各学年や各担当の中で共働的に業務が行われていた。 ▲分掌により一部の教職員に負担がかかりつついるため、全員で仕事を分担すべきだと考える。					
					(3.18)			

意見

- ・ICT機器等の導入により、僅たしくなるだけで、働き方改革になっていない。新しいものを取り入れることも大切はあるが、教員がもっとゆとりと余裕を持って仕事に臨めるような職場になればよい。
- ・一年間全職員で頑張れたと思います。管理職の先生方、ありがとうございます。
- ・来年度から始まる東条学園小中一貫教育のシステムや学習方法、授業の仕方などを積極的に情報収集し、可能な範囲で少しずつ取り入れていき、滝野でもスムーズに移行できるように準備していきたい。
- ・日頃の授業だけでなく、修学旅行など行事も取り組めたおかげで、最終学年の3年生にとっては大きな成果が得られた。